

国際極年 2007-2008 シンポジウム

- 地球規模の変動現象と極域の役割り -

日時：平成 22 年 3 月 1 日（月）
10：00～17：35

会場：日本学術会議講堂

IPY 2007-2008 symposium

-Global Change and Polar Science-

PROGRAM

- | | |
|-------------|--|
| 10：00～10：05 | 開催の挨拶 佐藤夏雄（国立極地研究所・副所長） |
| 10：05～11：35 | 第 1 部：国際極年を振り返って
・南極域における国際極年の研究活動
白石和行（国立極地研究所・副所長）
・北極域の陸域・海洋・大気研究
大畑哲夫（海洋研究開発機構・プログラムディレクター）
・両極域における海洋－海水変動と温暖化
大島慶一郎（北大低温研究所・教授） |
| 11：35～12：15 | 第 2 部：国際極年での研究活動報告（1）（No. は、IPY/IPO 公認番号）
・南北両極域から見る電離圏・磁気圏現象とその共役性（No.63）
山岸久雄（国立極地研究所・教授）
・南極昭和基地におけるオゾン層変動総合観測（No. 99）
中島英彰（国立環境研究所・主席研究員） |
| 12：15～13：30 | ポスター発表 |
| 13：30～15：50 | 第 2 部：国際極年での研究活動報告（2）
・北極大気中のブラックカーボンエアロゾルの起源・季節変動及び物理・化学特性（No. 32）
近藤 豊（東大先端研研究所・教授）
・北極海観測における国際極年
菊地 隆（海洋研究開発機構・チームリーダー）
・南極域の海洋研究、CAML 関連（No.53）
福地光男（国立極地研究所・教授）
・南北両極における環境変動への微生物学的・生態学的応答 -MERGE-（No.55）
神田啓史（国立極地研究所・教授）
・東シベリア・スツルハイアータ地域の雪氷環境変動（No. 37）
高橋修平（北見工大・教授）
・日本スウェーデン共同内陸トラバース観測（No. 152）
藤田秀二（国立極地研究所・准教授）
・南極セールロンダーネ山地における国際共同地学調査
外田智千（国立極地研究所・准教授） |
| 16：00～17：30 | 第 3 部：ポスト国際極年へ向けての提言
・南極昭和大型大気レーダー計画（No.9）
佐藤 薫（東大大学院理学系研究科・教授）
・北極海の酸性化
川合美千代（カナダ漁業海洋省海洋科学研究所・研究員）

総合討論 |
| 17：30～17：35 | 閉会の挨拶 藤井理行（国立極地研究所・所長） |

日本学術会議・<http://www.scj.go.jp/>
（アクセス）東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口すぐ

主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際対応分科会（IPY2007-2008 対応小委員会）
情報・システム研究機構 国立極地研究所
共催：独立行政法人 海洋研究開発機構

問い合わせ先：情報・システム研究機構 国立極地研究所内 IPY2007-2008 対応小委員会事務局
E-mail：ipy2007@nipr.ac.jp